

単元構想

単元名【 自分の感じたことを、朗読で表現しよう 】 教材名【 やまなし （宮沢 賢治）】 （全8時間） 6年 田谷 雅人

⑤【単元目標】 作品の特徴や作者の思いを捉え、優れた表現を味わいながら、自分の感じたことが伝わるように朗読することができる。

⑥【単元の言語活動】 文章中の表現や構成などの優れた表現から感じたことを、朗読で伝え合う。
 （相手：学級や全校 目的：自分が感じたことを伝える 方法：朗読する 場面：国語の時間と縦割りの読み聞かせ 評価：感じたことが伝わるように朗読している

④【教材の特徴】
 ・色鮮やかな情景と様々な小動物が描かれており、児童が優れた表現に着目して朗読しやすい作品である。

③【既習事項】
 ・『カレーライス』では、登場人物の心情の変化を捉え、感じたことを伝え合う活動をしている。

②【児童の実態】
 ○本文中の表現に着目して、声の大きさなどを意識して音読することができる。
 △心情を読むことはできるが、朗読で伝える力が十分でない。

①【重点とする指導事項】
 ・作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことが伝わるように朗読すること。
 【読むこと（1）ア・エ】

⑦【言語活動成立の要件】
 ア 物語の情景や言葉の使い方に着目して読み、作品の特徴や作者の思いを捉えている。
 イ 優れた表現についての自分の考えをもち、どのように朗読すればよいか考えることができる。
 ウ 朗読発表会の流れ、時間、評価の観点が明らかになっている。

⑧【単元の流れ】

【第1次】 2時間 ・「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。 ・教師の朗読から学習への見通しをもち、学習計画を立てる。	【第2次】 4時間 ・「谷川の様子」「かにの会話や様子」「出来事」に着目して読む。 ・「五月」「十二月」「五月と十二月の比較」「題名」について考える。	【第3次】 2時間 ・グループで朗読記号を付け、読み方の工夫点を話し合う。 ・グループごとに朗読発表会をする。	【朝学習・縦割】 ・「この本、読もう」の作品に触れ、作品の構成や、優れた表現に着目して読む。
---	--	--	--

並行読書・・・宮沢賢治の作品を紹介し、朝学習など授業外で読めるようにしておく。

⑨【単位時間の工夫】

【第1次】 ・感じたことを朗読で表すことの見通しがもてるように教師が示範で朗読する。 ・初回の朗読を録音する。	【第2次】 ・展 開 課題→一人読み→全体交流→深めの発問→グループや全体での交流→朗読→まとめの流れで展開する。 ・まとめ 朗読を聞き合い、表現を工夫して朗読できているか見届ける。	【第3次】 ・交流の後に再度、朗読記号を見直す時間を確保する。 ・ペアやグループで朗読を練習し、朗読が工夫されていたかを伝え合う。	【縦割】 ・縦割の読み聞かせで、「朗読発表会」を行い、学習したことを全校に伝える。
--	--	--	---

⑩【支える学習環境】
 ・考えの足場となる教室掲示（学習課題、学習計画表、学習の足跡・朗読の仕方・朗読記号）
 ・並行読書用図書の設定 ・ICTの活用（朗読の録音）

【研究とのかかわり】
 （1）願いを明確にした単元指導計画の工夫
 ・単元を貫く言語活動を「自分の感じたことを、朗読で表現しよう」とし、文章中の表現や構成などの優れた表現から感じたことを朗読で表現することを意識しながら、単位時間の終末で朗読する活動を位置付ける。
 ・縦割の読み聞かせで「朗読発表会」を行い、学習したことを全校に伝える活動を位置付ける。

（2）考えを深め、広げるための指導の工夫
 ・意識を揺さぶる発問や、新たな視点を与える発問など、課題に迫る深めの発問を工夫する。
 ・ペアやグループで意見や朗読を交流する際には、仲間の考えや朗読を聞き、自分の感想を伝える活動を位置付けることで、考えを広げたり、深めたりできるようにする。

（3）高まりを自覚できるまとめ方の工夫
 ・第1次の朗読を録音し、第3次の朗読と比べることで、自己の高まりを自覚できるようにする。
 ・交流や朗読の仕方を考える際には、仲間と交流して学んだことや、深まったことを◎の記号を使い、書く時間を確保し、考えの高まりを自覚できるようにする。

◆本時のねらい

「白いやわらかな丸石」「辺りはしんとして」などの「十二月」の谷川の様子、「そうじゃないよ。ぼくのほう、大きいんだよ。」「ああ、いいにおいだな。」「おいしそうだね、お父さん。」などのかへの親子の会話文や、「そのとき、トブン。」「かわせみだ。」などのやまなしが水面に入ってきたときの様子が分かる表現に着目し「十二月」の谷川の情景を読む活動を通して、明るく美しい谷川の様子や幸せそうなかへの親子の様子を捉え、自分の感じたことを朗読で表現することができる。

◆本時の展開（4/8）＜P 114 L 7 ～P 118 L 12＞

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点（☆人権教育の視点）
つかむ	<p>1 前時を振り返り、本時の課題を確認する。</p> <p>かへの親子や、やまなしが水面に入ってきたときの様子を想像し、自分の感じたことを朗読で表現しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人読みの力が十分でない児童に対しては、「ああ、いいにおいだな。」「おいしそうだね、お父さん。」などの言葉に着目させ、かへの親子の心情を捉えることができるようにする。 交流する際には、仲間と交流して学んだことや、深まったことを⊗の記号を使って書く時間を確保し、考えの高まりを自覚することができるようにする。
考える	<p>2 一人読みをする。</p> <p>3 全体交流をする。</p> <p>【谷川の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「白いやわらかな丸石」→おだやかで美しい様子⇒小さく 「辺りはしんとして」→静かな様子⇒小さく 間を開けて <p>【かへの親子の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あわくらべ」をしている様子⇒悔しがっている弟のかへ⇒怒ったように 泣きそうに 「おいしそうだね、お父さん。」などの表現⇒やまなしのいいにおいにふれて、嬉しそうで幸せそうな様子⇒明るく <p>【やまなしが水面に入ってきたときの様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「そのとき、トブン。」⇒やわらかくおだやかな落ち方⇒ゆっくくり 間を空けて 「かわせみだ。」⇒かへの子どもがおどろき、こわがっている様子⇒強く 速く 	
深める	<p>4 深めの発問をし、全体交流する。</p> <p>朗読の仕方を大きく変えるとよいのはどこだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「かわせみだ。」から「首をすくめて言いました」→あわくらべをしていた時のかへの様子とは違うから、読み方を工夫したい。⇒「かわせみだ。」は速く、「首をすくめて」は声を震わせて小さく朗読したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆かへの親子の会話から、経験にとらわれず、根拠を明らかにして正しく判断することの大切さに気付くことができる。（認識力） 朗読の観点を明らかにするために、本時の学習で考えたことをもとに、どのように工夫して朗読するのか相手に話す活動を位置付ける。 朗読の際には、「朗読の仕方」「朗読記号」を示す。
まとめる	<p>5 朗読の仕方を考え、グループごとに朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1グループの発表を聞き、感想を交流する。 <p>6 本時の学習をまとめる。</p> <p>「十二月」の谷川は、「白いやわらかな丸石」など、美しい様子が表現されているので、ゆっくりと朗読する。やまなしが水面に入ってきた場面は、かわせみが入ってきたと思ったかへの怖がっている様子が伝わるように朗読する。やまなしを追いかけるかへの親子の会話文は幸せそうに明るい声で朗読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 代表グループの朗読から、朗読の変化を聞き分け、価値付ける。
	<p>7 本時の学習のふり返しをし、次時の見通しをもつ。</p>	<p>評価規準【読む能力】</p> <p>かへの親子の会話文や、谷川にやまなしが入ってきたときの様子が分かる表現に着目して読み、明るく美しい谷川の様子や幸せそうなかへの親子の様子を捉え、感じたことを朗読で表現している。＜ノート・発表・朗読＞</p>